

2026年度予算編成にかかる会計委員会報告

2026年2月8日、午後1時より2時55分まで、会計委員4名(東副理事長、西山専務理事、本郷理事、吉井理事)全員が出席し、予算についての検討を行った。

その中で、特に研修会収入と研修会経費に関して議論が集中した。結論としては以下の通り。

- ・現状として、研修会をやればやるほど赤字になるという体質は改善が必要である。
- ・法人化の少し前から全国研修会参加費を下げてきたが、コロナ期とその後の「大量に参加者がある」という状況から変わってきており、参加費を3000円のままでよいのかは検討が必要。(従来は全国研修会参加費7000円だった)。
- ・法人化とオンライン化で業者に多くを助けてもらっているが、何をしてもらえばどれだけ経費がかかるのか、より可視化する必要がある。(機構と同じ法人にいたときは、これらはすべて「事務所費・人件費・専門仕業費等約2300万(2021年度決算)」に含まれていて見えなかったが、それがすべて「経費」として見えるようになってきている。) 研修会の規模や方法によって経費が変わってくるので、それに応じて「参加費」を変えることも必要だ。ただし、会費をもらっているのだから、とりわけ支部研修については、赤字にしなければならないということにはならない。いくつかパターンを用意して、参加費決定の資料とできるようにする。(別紙1) → **主催者が参加費を決定できるようにする**

については、支部研修会は士会からの持ち出し(赤字)が一定額を超えないように、それぞれ参加費を設定することに協力して頂けるよう呼びかける。(1研修会あたりの「一定額」とは、開催に最低必要だと思われる額を18万円と設定し、支部の規模に合わせて増額するという計算式で、支部毎に設定した額) 支部研修会参加費決定のためのシミュレーターを使って頂けると目安がわかる。

全国研修会については、同様に全国研修会用のシミュレーターを使って検討して頂き、単位研修会で黒字にし、士会の他の活動に貢献できるように設定する。

・状況が変化し、「座学・理論的な研修」をすべて全国研修会が引き受けることは困難になった。また、全国的にニーズはあるが従事している人が少ない「ニッチな」研修は、「つながりグループ」などの場で取り組まれることを期待する。支部においても、「事例検討会」や「その地域特有の課題についての研修会」は柱ではあるが、以前のように幅広い研修会をやってもらうことは望ましい。ただ、参加者が多くならないことも考慮して計画を対いでいただくことを期待する。

・特に支部において、「公開研修会」を「有料」で取り組んでほしい。一つは「有料の方は質が担保されている」と感じる方が多いこと、赤字が減らせること、公開にすることでプレスリリースが打てること、等があるからである。加えて、公開講座の冒頭に、「資格と士会の宣伝や資格の取り方、士会の入会の仕方のプロモーションビデオを流してもらうことを要請する。(広報委員会か執行部にビデオの作成を要請する)。なお、この場合は会

員・非会員同額の参加費でかまわないが、臨床発達心理士更新ポイントを設定する場合は、ポイントを申請できるのは会員のみであることを明記すること。

・全体として「節約」に務めた予算編成になった。もう少し節約できるところはないか検討した結果、ZOOMの使用について検討することにした。これまでNECISに一括して年間契約で依頼していたが、年度途中での変更が出来ない。ほかのより柔軟に対応できる方法はないか検討。国際文献の事務局と協議する。研修委員会はウェビナーの使用をやめたが、ほかに節約点はないか。本部としては「理事会・執行部会用の1アカウント(国際文献管理)のほかは、研修委員会用を研修用と変更(研修委員会の会議にも使用可)とし、ほかの委員会はすべて「諸会議」アカウントの利用で運営できないか。また、支部においては必要ない支部はないか、あるいは、必要以上のアカウントを持っている支部はないかアンケートを採り(別紙2)、不要なアカウントを減らしていく。

関わって「算定基準書」に基づいた国際文献との協議が必要だ。

・一方、広報費は増額した。社員総会までにポスター・ちらし・士会要覧(士会の概要の紹介パンフレット)を作成し、大学教員である会員をはじめ、職場等で活用いただくとともに学会で活用する。また、LINE公式を使って全会員に何度でもお知らせを送ることができる条件を整えた。

・支部への配分額を確認した。理事会では配分額総額のみ決定するので、その用途については、支部で検討され、支部会員の要望・必要性も鑑みて、支部総会において決定してください。「予算請求」の根拠としてあげた内容から変更することもしてもらって結構です。というか、上記の会計委員会からの意見に沿って、必要な変更はしていただきたい。

・支部総会への予算提案、および決算報告については、大項目の方法で結構です。(別紙3)

・最後に、会費の支払い方について呼びかけを行いたい。すなわち、会費は現在「クレジットカード」「コンビニ決済」「銀行振り込み」「郵便振替」の4つの方法が利用できるが、クレジットカード決済の場合は10000円の会費に対して、システム利用料とクレジットカード手数料で750円、コンビニ決済の場合はシステム利用料とコンビニ決済手数料と税で635円かかる。一方、銀行振り込みや郵便振替は会員に手数料、銀行振り込みの場合は275円(利用銀行によって違うかもしれない)、郵便振替はATM利用の場合は152円、窓口扱いの場合は203円を、会員に負担して頂くが、会費そのものは全て入金される。4000名の会員が全てクレジットカードで払った場合は、300万円が手数料として引かれることになる。会員の負担は増えるが、可能な限り郵便振替や銀行振り込みを利用して頂くよう、呼びかけることが良いと思われる。

以上、「2026年度予算案」「支部への配分額」「第22回全国大会予算案」とこの付帯決議を合わせて、理事会に提案します。参考資料として各支部予算請求一覧、各委員会予算請求一覧を添付します。